neutrophil cytoplasmic antibody)型，PR3(プロテイナーゼ3)-ANCA型，抗GBM(糸球体基底膜抗体 glomerular basement membrane)抗体型急速進行性腎炎症候群毎に臨床症状の程度に基づく治療指針が提示されている．感染症の併発が生命予後を左右することが多く，初期治療終了後速やかにプレドニゾロンを20mg/日未満まで漸減することが推奨されている．重症例ではシクロホスファミドに代表される免疫抑制薬の併用投与が行われる．

本邦ではミゾリビンの併用が多く，MPO-ANCA型の再発予防効果が報告されている．肺出血など出血病変の合併を高頻度に認めることから，抗血小板薬，抗凝固亢進薬の投与は出血病変を増悪させる可能性があり，投与にあたり慎重を期する必要がある．本邦での保険適用上，プレドニゾロン以外の薬剤は血管炎症候群に未承認であることを念頭に置く必要がある．

文　献

1) 急速進行性糸球体腎炎診療指針作成合同委員会．急速進行性腎炎症候群の診療指針．日本腎臓学会誌 44：55-82，2002.
2) Hirayama K, et al：Treatment with the purine synthesis inhibitor mizoribine for ANCA-associated renal vasculitis. Am J Kidney Dis 44：57-63, 2004.

適応症

MPO-ANCA型，PR3-ANCA型，抗GBM抗体型急速進行性腎炎症候群

薬剤名	下限	⬅	常用量	➡	上限
血漿交換療法　plasmapheresis			処理量 2～3L		

使用法

初期治療として，通常二重濾過膜血漿除去療法を選択する．数日間連日治療を行い，以降，週に数回の頻度で行う．置換液として5％アルブミン溶液あるいは新鮮凍結血漿を用いる．

主作用

血中に循環している原因抗体(ANCAや抗GBM抗体)を除去することにより，腎炎や肺出血の増悪を抑止する．

副作用と対策

体外循環療法に準じた副作用として血圧低下などがあげられる．血腫形成などのバスキュラー・アクセスに基づく副作用も重要である．抗体の除去に伴い免疫グロブリンやアルブミンの喪失が起こるので，これらをモニタリングする必要がある．

禁忌

体外循環療法が可能であれば，禁忌となる病態は少ない．

解説

とくに抗GBM抗体型急速進行性腎炎症候群では，時期を逸することなく早期より積極的に血漿交換療法を施行する必要がある．前述の多剤併用薬物療法と併用して行う．また，MPO-ANCA型，PR3-ANCA型の補助療法として，ANCAを除去することを目的として全血漿交換療法が併用され，最近では白血球除去療法も選択される．全身性エリテマトーデスを含む免疫複合体型の補助療法として免疫複合体や，抗DNA抗体の除去を目的として血漿交換療法が選択されることがある．

その他，クリオグロブリンや抗リン脂質抗体の除去も可能である．しかし，現状の本邦の保険診療において血漿交換療法が認められている腎臓疾患は，巣状糸球体硬化症，溶血性尿毒症症候群，同種腎移植，全身性エリテマトーデスのみであることを十分に把握し，治療を選択，実施すべきである．

文　献

1) Johnson JP, et al：Therapy of anti-glomerular basement membrane antibody disease：analysis of prognostic significance of clinical, pathologic and treatment factors. Medicine 64：219-227,1985.
2) Yamagata K, et al：Apheresis for MPO-ANCA-associated RPGN-indications and efficacy：lessons learned from Japan nationwide survey of RPGN. J Clin Apher 20：244-251, 2005.

血管炎症候群/MPA

斎藤　大輔*　佐田　憲映*　槇野　博史*
さいとう　だいすけ　さだ　けんえい　まきの　ひろふみ

- 血管炎症候群のうち腎障害をきたしやすいのはANCA関連血管炎で，わが国ではMPAの頻度が高い．
- MPO-ANCA抗体価はMPAの疾患活動性の指標となり，再燃予知の指標として有用である．
- MPAの寛解導入療法の基本は大量の副腎皮質ステロイドとシクロフォスファミドによる強力な免疫抑制療法である．
- MPAの治療における問題点は感染症死が多いことで，病勢に合った免疫抑制療法の選択と感染予防が必要である．

Key Words　顕微鏡的多発血管炎，抗好中球細胞質抗体（ANCA），副腎皮質ステロイド剤，シクロフォスファミド

はじめに

血管炎は病理組織学的には血管壁の炎症，細胞浸潤，壊死がみられ，血管の炎症とそれに伴う血管の破壊・破綻により多臓器の虚血，出血病変をきたす病態である．血管は全身に分布するためさまざまな症状を呈することが多く，これら多様の臨床病態は血管炎症候群と総称される．血管炎をきたす疾患は多岐にわたるが，1994年にChapel Hill Conferenceにおいて各血管炎の疾患概念について再検討がなされ，原発性血管炎は障害される血管の大きさにより大型血管炎，中型血管炎，小型血管炎に分類された[1]（**表1**）．小型血管炎は主に細動脈，毛細血管，細静脈に炎症をきたすが，なかでも顕微鏡的多発血管炎（microscopic polyangiitis：MPA），Wegener肉芽腫症，Churg-Strauss症候群は血清中に高率に抗好中球細胞質抗体（anti-neutrophil cytoplasmic antibody：ANCA）を認め，その病態と強く関連していると考えられ，ANCA関連血管炎と呼ばれる．これらANCA関連血管炎における腎障害は臨床的に急速進行性糸球体腎炎（rapidly progressive glomerulonephritis：RPGN）を呈し，短期間で末期腎不全へ至る重症例も多く，また生命予後をも脅かすため，早期より適切な管理・治療が必要である．本稿では，ANCA関連血管炎のなかでも特にわが国で発症頻度の高いMPAにつき，その治療を中心に概説する．

□ MPAの診断

厚生労働省調査研究班より提唱されているわが国の診断基準を**表2**に示す[2]．主要症候で頻度が高いのは急速進行性糸球体腎炎（70%）で，続いて肺出血あるいは間質性肺炎などの肺病変を認める．紫斑など皮膚病変も特徴的である．その他，初発症状として発熱，体重減少，全身倦怠感など全身症状のほか，関節痛，筋肉痛などの非特異的な症状を呈する．一般検査所見では全身の炎症を反映して白血球数増加，赤沈亢進，CRP上昇，高γグロブリン血症を認め，腎臓の炎症を反映し蛋白尿・血尿とBUN，血清クレアチニン上昇を認める．MPO-ANCAの測定はその補助診断のマーカーとして有用とされ，わが国の診断基準に取り入れられている．ANCA抗体価の推移は疾患活動性のよい指標となり再燃予防にも有効との報告もある[3,4]．病理組織学的には細動脈や毛細血管などの小血管を主体とする壊死性血管炎が特徴的で，腎組織では免疫グロブリンや補体の沈着が軽度かほとんど見られないpauci-immune型の壊死性半月体形成性腎炎を呈し，尿細管間質では尿細管炎や間質の浮腫，炎症細胞浸潤が認められる．

*岡山大学大学院医歯薬学総合研究科　腎・免疫・内分泌代謝内科学

表1　Chapel Hill 分類

分　類	血管炎	特　徴
大血管の血管炎	巨細胞動脈炎（側頭動脈炎）	大動脈とその主要分枝の肉芽腫性血管炎で，頸動脈の頭蓋外分枝を主として侵す．しばしば側頭動脈に病変を認める．通常，50歳以上に発症し，しばしばリウマチ性多発筋痛症を併発する．
	高安動脈炎	大動脈とその主要分枝の肉芽腫性炎症で，通常50歳以下に発症する．
中血管の血管炎	結節性多発動脈炎	中・小動脈の壊死性炎症で，糸球体腎炎や細動脈，毛細血管，細静脈の炎症は認めない．
	川崎病	大・中・小動脈の血管炎で，粘膜皮膚リンパ節の病変を伴う．冠動脈がしばしば侵される．大動脈や静脈にも変化を伴うことがある．通常，小児に発症する．
小血管の血管炎	Wegener 肉芽腫	気道の肉芽腫性炎症と小〜中血管（毛細血管，細静脈，細動脈，小動脈）の壊死性血管炎．通常，壊死性糸球体腎炎を伴う．
	アレルギー性肉芽腫性血管炎 (Churg-Strauss syndrome)	好酸球に富む気道の肉芽腫性炎症と小〜中血管の壊死性血管炎．気管支喘息や好酸球増多症を伴う．
	顕微鏡的多発血管炎	小血管（毛細血管，細静脈，細動脈）の壊死性血管炎で免疫複合体の沈着はわずかあるいは認めない．小〜中動脈の動脈炎を伴うこともある．壊死性糸球体腎炎の頻度が高く，しばしば肺毛細血管炎を伴う．
	Henoch-Schönlein 紫斑病	小血管（毛細血管，細静脈，細動脈）の血管炎でIgAを主体とする免疫複合体の沈着を認める．典型例では皮膚，腸管，腎糸球体が障害され，関節痛や関節炎を伴う．
	本態性クリオグロブリン血症	小血管（毛細血管，細静脈，細動脈）の血管炎で，血管壁に免疫複合体の沈着と，血清中にクリオグロブリンを認める．皮膚と腎糸球体がしばしば侵される．
	皮膚白血球破砕性血管炎	皮膚に限局した白血球破砕性血管炎で，全身性血管炎や糸球体腎炎を伴わない．

（文献[1]より）

□ MPA の治療（表3）

現在のところ重篤な臓器障害を認める全身性の MPA においては，パルスを含む大量の副腎皮質ステロイド剤と免疫抑制剤の併用が基本である[5]．本症は予後不良な疾患として知られ，原疾患による死亡だけでなく，感染症死も高率である．よって，肺・腎をはじめ全身の症候，病理所見，ANCA 抗体価などを参考に重症度と予後を考慮し，過剰な免疫抑制療法を避ける努力も必要である．

1．寛解導入療法

全身性血管炎型，肺腎型，RPGN 型を呈する重症例ではメチルプレドニゾロンパルス療法（0.5〜1.0 g/日，3日間）あるいは経口プレドニゾロン 0.6〜1.0 mg/kg/日（40〜60 mg/日）にて治療を開始し，4週間以内に免疫抑制剤としてシクロフォスファミド大量静注療法（0.5〜0.75 g/m^2）あるいはシクロフォスファミド 0.5〜2.0 mg/kg/日（50〜100 mg/日）の経口投与を追加する．プレドニゾロンは初期投与量を1ヵ月以上続け，以後病状に応じて漸減する．シクロフォスファミド大量静注療法は3〜4週間ごとに3〜6回行い，経口シクロフォスファミドの投与は3〜6ヵ月間とする．腎機能障害患者や高齢者ではシクロフォスファミドの投与量を減量する必要があり，また，シクロフォスファミドが投与できない症例にはアザチオプリン 1.0〜2.5 mg/kg/日（50〜150 mg/日）を使用する．RPGN にはヘパリン（5000〜10000単位/日）やジピリダモール（300 mg/日）などを併用し，血液透析や血漿交換も考慮する．びまん性肺出血型などの最重症例では上記治療に加え血漿交換が行われる．一方，腎限局型（RPGN を除く）・肺線維症型（肺出血を除く）などの軽症例においてはプレドニゾロン 0.3〜0.6 mg/kg/日（15〜30 mg/日）経口投与し，シクロフォスファミドまたはアザチオプリン 0.5〜1.5 mg/kg/日（25〜100 mg/日）を適宜併用する．シクロフォスファミドを併用する際には

表2　顕微鏡的多発血管炎の診断基準

主要項目
(1) 主要症候
① 急速進行性糸球体腎炎
② 肺出血，もしくは間質性肺炎
③ 腎・肺以外の臓器症状：紫斑，皮下出血，消化管出血，多発単神経炎など
(2) 主要組織所見
細動脈，毛細血管，後毛細血管細静脈の壊死，血管周囲の炎症性細胞浸潤
(3) 主要検査所見
① MPO-ANCA 陽性
② CRP 陽性
③ 蛋白尿・血尿，BUN・血清クレアチニン値の上昇
④ 胸部X線所見：浸潤陰影（肺胞出血），間質性肺炎
(4) 判　定
① 確実（definite）
(a) 主要症候の2項目以上を満たし，組織所見が陽性の例
(b) 主要症候の（1）および（2）を含め2項目以上を満たし，MPO-ANCA が陽性の例
② 疑い（probable）
(a) 主要症候の3項目を満たす例
(b) 主要症候の1項目と MPO-ANCA が陽性の例
(5) 鑑別診断
① 結節性多発動脈炎
② ウェゲナー肉芽腫症
③ アレルギー性肉芽腫性血管炎（チャーグ・ストラウス症候群）
④ 川崎病血管炎
⑤ 膠原病（SLE，RA など）
⑥ 紫斑病血管炎
参考事項
(1) 主要症候の出現する1～2週間前に先行感染（多くは上気道感染）を認める例が多い．
(2) 主要症候（1），(2) は約半数例で同時に，その他の例ではいずれか一方が先行する．
(3) 多くの例で MPO-ANCA の力価は疾患活動性と平行して変動する．
(4) 治療を早期に中止すると，再発する例がある．
(5) 除外項目の諸疾患は壊死性血管炎を呈するが，特徴的な症候と検査所見から鑑別できる．

（難治性血管炎分科会，1998年）

日和見感染の予防を厳重に行い，ST 合剤の予防投与を行う必要がある．

欧米諸国のプロトコールと比較し，わが国では経口プレドニゾロンの減量速度が遅い傾向が見られており，今後ステロイドの投与期間や投与方法についても再考する必要がある．これまでわが国における MPA に対する治療の前向きな検証が不十分であったが，厚生労働省難治性血管炎調査研究班によって行われた多施設共同研究によりわが国における標準的治療プロトコールの検証が行われ現在解析中である．

2．維持療法

寛解導入後は再燃に注意してプレドニゾロン 5～10 mg/日を継続投与する．血管の内腔狭窄および血栓形成に関し，抗凝固療法（ワーファリンなど），血管拡張剤（プロスタグランジン製剤），抗血小板剤（ジピリダモールなど）を併用する．経口シクロフォスファミド投与は投与開始後6ヵ月以内に中止するのが好ましいが，アザチオプリンに変更して継続してもよい．

MPA は再発率が高いため，この際 ANCA 抗体価や腎機能，CRP などを参考に厳重に経過を観察する．また，長期のステロイド剤や免疫抑制剤投与による副作用（ステロイド剤による骨粗鬆症，耐糖能障害，高血圧，感染症，シクロフォスファミドによる造血抑制，不妊症，感染症，悪性腫瘍）にも注意が必要である．現在，厚生労働省進行性腎障害調査研究班において寛解維持に関す

表3　MPO-ANCA関連血管炎に対する標準的治療プロトコール

1．寛解導入療法（初期治療）：3～6ヵ月を要して治療する．

1）重症例（以下の3型があてはまる）

全身性血管炎型（3臓器以上の障害）

肺腎型（限局性肺出血または広範囲間質性肺炎と腎炎の合併）

RPGN型（血清Cr値が1ヵ月以内に2倍以上に増加）

・メチルプレドニゾロン（mPSL）パルス（0.5～1.0 g/日）療法×3日間あるいは経口プレドニゾロン（PSL）0.6～1.0 mg/kg/日（40～60 mg/日）

・4週間以内に以下の併用療法を追加する．
シクロホスファミド大量静注療法（IVCY）0.5～0.75 g/m²または経口シクロホスファミド（CY）0.5～2.0 mg/kg/日（50～100 mg/日）

・血清Cr≧1.8 mg/dlや75歳以上では，IVCY，CYの投与量を75％～50％に減量する．

・パルス後のPSL投与量はPSLの経口投与量に準ずる．

・PSLは40～60 mg/日の初期投与量を1ヵ月以上続け，以後病状に応じて漸減する．

・IVCYの投与間隔は3～4週間，総投与回数は3～6回（症例により12回まで可）とする．経口CY投与は3～6ヵ月間とする．

・IVCY投与2週間後のWBC数が3500/μl以上を保つように投与量は調節する．

・CYを服用できない症例にはアザチオプリン（AZP）を1.0～2.5 mg/kg/日（50～150 mg/日）投与する．投与期間は6ヵ月以上とする．

・上記治療期間はST合剤（Bakter）2T/日を週2日または1T/日を連日予防投与する．

・RPGNには血液透析や血漿交換を，消化管出血には内視鏡的および外科的処置を施行する．

・RPGNにはヘパリン（10000～5000単位/日）やジピリダモール（300 mg/日）などを使用する．

2）最重症例（以下の場合があてはまる）

びまん性肺出血型，腸管穿孔型，膵炎型，脳出血型

抗基底膜抗体併存陽性例，重症例の治療抵抗性症例

・重症例と同様に，IVCY/CYとPSL治療を施行する．それとともに血漿交換を行う．血漿交換は，2.0～3.0 L×3日間を1クールとする．

・ST合剤（Bakter）2T/日を週2日または1T/日を連日予防的に投与する．

3）軽症例

腎限局型（RPGN型は除外），肺線維症型（肺出血型は除外）

その他の型（筋・関節型，軽症全身型，末梢神経炎型など）

・PSL0.3～0.6 mg/kg/日（15～30 mg/日）経口投与する．

・CYまたはアザチオプリン（AZP）0.5～1.5 mg/kg/日（25～100 mg/日）を適宜併用する．

2．維持療法

・寛解導入後は，PSL10～5 mg/日で再燃に注意して経過観察する．

・血管の内腔狭窄および血栓形成に関し，抗凝固療法（ワーファリンなど），血管拡張剤（プロスタグランジン製剤），抗血小板剤（ジピリダモールなど）を投与する．

・経口CY投与は投与開始後6ヵ月以内に中止するのが好ましいが，AZPに変更して投与継続するのも可である．

（厚労省難治性血管炎研究班より一部改変，2004年）

る多施設共同ランダム化比較試験が進行中である．

3．免疫抑制剤の使い方

シクロフォスファミドは現在血管炎に対する免疫抑制剤の第1選択薬となっているが，副作用発現率も高く，その投与方法や代替となる免疫抑制剤につき検討されてきた．de Grootらは，経口シクロフォスファミドと静注シクロフォスファミドを比較した三つのRCTをメタアナライスし，静注療法は経口に比べ有意に寛解導入率が高く感染症発症率が低かったと報告した．再発率はやや静注で多かったが有意差はなく，死亡率，透析移行率も両群間で差はなかった[6]．また，EUVASの行ったCYCAZAREMでは，全身性のANCA関連血管炎をステロイドとシクロフォスファミド併用で寛解導入させた後，シクロフォスファミドまたはアザチオプリンのいずれかを12ヵ月間投与し比較検討を行っている．結果は寛解導入率93％，再発率は17％で両薬剤間に有意差はなく，アザチオプリンはシクロフォスファミドと同等の再発抑制効果を認めた[7]．よって現時点では再発

や感染症のリスク，薬剤の認容性など個々の状態に応じて投与方法や薬剤の使い分けを行うべきと考えられる．

□ その他の治療に関するエビデンス

1．メトトレキサート（MTX）

EUVAS の行った NORAM で，発症早期の ANCA 関連血管炎の寛解導入における経口メトトレキサートと経口シクロフォスファミドの有効性が比較検討された．6ヵ月後の寛解導入率は両者で差を認めず，メトトレキサートは寛解導入において経口シクロフォスファミドの代替となり得る治療であることが示されたが，18ヵ月後の再発率は有意にメトトレキサートで高いこと，また多臓器病変や肺病変を有する患者では有効性が劣ることも報告されている[8]．

2．ミコフェノール酸モフェチル（MMF）

MMF は細胞内 *de novo* 系プリン合成経路を阻害することによって，活性化リンパ球を選択的に阻害する．MMF は選択性の高い合成阻害剤であり，副作用が少なく免疫抑制剤のなかでは優れた認容性を示す．Hu らは ANCA 関連血管炎の寛解導入において，静注のシクロフォスファミドに比べ MMF の優れた疾患活動性改善効果を報告した[9]．また維持療法に対しても有用性が報告されているが[10]，腎不全患者では貧血や消化器症状をきたしやすく，投与量の調節が必要である[11]．

3．ミゾリビン（MZB）

本邦で開発された免疫抑制剤で，効果がマイルドで臨床の場で使いやすい薬剤である．維持療法での効果が報告されている[12]．

4．血漿交換療法

腎不全合併 ANCA 関連血管炎に対する補助療法としての血漿交換の有用性が，EUVAS にて検討された（MEPEX）．ステロイドパルス療法に比し血漿交換は腎障害の改善には有用であったが，死亡率と安全性は同等であった[13]．

5．抗 CD20 モノクローナル抗体

ANCA の産生細胞である B 細胞の抑制を目的として，抗CD20 モノクローナル抗体（リツキシマブ）の投与が試みられている．Wegener 肉芽腫を中心に，従来の治療に抵抗性の ANCA 関連血管炎に対しリツキシマブは認容性が多く効果があったという報告がなされ[14,15]，B 細胞抑制が新たな治療ターゲットとして期待される．

おわりに

疾患概念の普及による早期診断とステロイド剤，免疫抑制剤を組み合わせた治療法の確立により MPA の予後は改善しつつあるが，予後の改善に伴い，今後長期にわたる管理も重要になってくると思われる．近年さまざまな治療法によるエビデンスが蓄積されてきたが，長期管理を視野に入れた新たな治療戦略の開発が望まれる．

文　献

1) Jennette JC, Falk RJ, Andrassy K, et al：Nomenclature of systemic vasculitides：Proposal of an international consensus conference. Arthritis Rheum **37**：187-192, 1994
2) 厚生科学研究特定疾患対策研究事業難治性血管炎に関する調査研究班：難治性血管炎の診療マニュアル．2002
3) Han WK, Choi HK, Roth RM, et al：Serial ANCA titers：useful tool for prevention of relapses in ANCA-associated vasculitis. Kidney Int **63**：1079-1085, 2003
4) 有村義宏，吉原　堅，大和恒恵，他：MPO-ANCA 関連腎炎・血管炎の寛解時期における ANCA 値再上昇の意義に関する研究．厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業進行性腎障害に関する調査研究　平成17 年度総括・分担研究報告書．62-66，2006
5) 難治性疾患克服研究事業難治性血管炎に関する調査研究班（主任研究者：尾崎承一）平成 16 年度総括・分担研究報告書．217-253，2004
6) de Groot K, Adu D, Savage CO：The value of pulse cyclophosphamide in ANCA-associated vasculitis：meta-analysis and critical review. Nephrol Dial Transplant **16**：2018-2027, 2001
7) Jayne D, Rasmussen N, Andrassy K, et al：A randomized trial of maintenance therapy for vasculitis associated with antineutrophil cytoplasmic autoantibodies. N Engl J Med **349**：36-44, 2003
8) De Groot K, Rasmussen N, Bacon PA, et al：Randomized trial of cyclophosphamide versus methotraxate for induction of remission in early systemic antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis. Arthritis Rheum **52**：2461-2469, 2005
9) Hu W, Liu C, Xie H, et al：Mycophenolate mofetil versus cyclophosphamide for inducing remission of ANCA vasculitis with moderate renal involvement. Nephrol Dial Transplant **23**：1307-1312, 2008
10) Nowack R, Gobel U, Klooker P, et al：Mycophenolate mofetil for maintenance therapy of Wegener's granulomatosis and microscopic polyangiitis：a pilot study in 11

patients with renal involvement. J Am Soc Nephrol **10** : 1965-1971, 1999

11) Haubitz M, et al : Tolerance of mycophenolate mofetil in end-stage renal disease patients with ANCA-associated vasculitis. Clin Nephrol **57** : 421-424, 2002
12) Hirayama K, Kobayashi M, Hashimoto Y, et al : Treatment with the purine synthesis inhibitor mizoribine for ANCA-associated renal vasculitis. Am J Kidney Dis **44** : 57-63, 2004
13) Jayne DR, Gaskin G, Rasmussen N, et al : Randomized trial of plasma exchange or high-dosage methylprednisolone as adjunctive therapy for severe renal vasculitis. J Am Soc Nephrol **18** : 2180-2188, 2007
14) Keogh KA, Ytterberg SR, Fervenza FC, et al : Rituximab for refractory Wegener's granulomatosis : report of a prospective, open-label pilot trial. Am J Respir Crit Care Med **173** : 180-187, 2006
15) Stasi R, Stipa E, Del Poeta G, et al : Long-term observation of patients with anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis treated with rituximab. Rheumatology (Oxford) **45** : 1432-1436, 2006

INFORMATION ―読者プレゼント

「THE IMAGE OF MS」キャンペーン開始記念
写真集『THE IMAGE OF MS―多発性硬化症(MS)と共に』読者プレゼント

URL http://www.ms-gateway.jp/scripts/pages/244.php

バイエル薬品株式会社（本社：大阪市，社長：ジャン-リュック・ロビンスキー）は，ドイツのバイエル・シエーリング・ファーマ社が世界各国で展開する多発性硬化症(MS) 啓発活動「THE IMAGE OF MS」キャンペーンを，6月より日本でも開始いたしました．

今回は，これを記念して作成された MS 患者さんの写真集『THE IMAGE OF MS―多発性硬化症（MS）と共に』を 5 名の方にプレゼントいたします．（応募要領は下記参照）

難病を患いながらも，前向きな想いで力強く生きている患者さんの姿とメッセージを，ぜひご覧下さい．

記

プレゼント賞品：『THE IMAGE OF MS―多発性硬化症（MS）と共に』〈非売品〉

応募資格：どなたでもご応募できます．

応募方法：郵政はがきに「MS 写真集希望」と書いて，①住所（賞品の送付先），②氏名（フリガナ），③年齢，④電話番号，⑤性別，⑥職業を明記の上，下記宛先までお送り下さい．

〒106-8691　日本郵便麻布郵便局留「MS 写真集」読者プレゼント　モダンフィジシャン係

プレゼント数：5 名（1 名につき 1 冊）

応募締切：9 月 30 日必着

発表：プレゼントの発送をもって発表にかえさせていただきます．

(表)

切手　106-8691

麻布郵便局留

「MS写真集」読者プレゼント

モダンフィジシャン係

(裏)

MS 写真集希望

①住所（賞品の送付先）
②氏名（フリガナ）
③年齢
④電話番号
⑤性別
⑥職業

※応募に関するお問い合わせは，(株)コスモ・ピーアール（TEL：03-5561-2915）まで

Journal of Endocrinology

An established global forum for your work

A major global journal covering molecular, biochemical and physiological aspects of the structure and functions of the endocrine system.

- No page or reviewing charges
- Worldwide readership
- Fast publication times
- US Editor: D R Brigstock, OH, USA
- High impact factor: **3.072**

www.try-joe.org
Advance Abstracts and Accepted Preprints freely available online from day of acceptance.

How to submit your paper

Submit **online** using the Manuscript Central system at www.endocrinology.org/misc/onlinesub_man.shtml

Articles include **Research Papers**, **Reviews** and **Commentaries**. Papers are primarily considered if they provide new substantial and mechanistic advances in the science of endocrinology. American or British spellings are equally acceptable.
An online supplementary data facility is available. More detailed author guidelines can be found via www.endocrinology-journals.org/misc/ifora.shtml or contact the editorial office (Tel: +44 (0) 1454 642220; Fax: +44 (0) 1454 642201; Email: editorial@endocrinology.org).

Subscribe to *Journal of Endocrinology*

Essential reading for endocrinologists – Fully global content – All papers rigorously peer reviewed – Contains commentaries and reviews of topics of current interest

ISSN 0022-0795 (Monthly) Editor-in-Chief: Professor J R E Davis

Order form

Please enter my 2008 subscription to *Journal of Endocrinology* at

- ❑ The personal price of $435 (N&S America), €325 (Europe) and £230 (Rest of World)
- ❑ The print+online institutional price of $1,770 (N&S America), €1,390 (Europe) and £930 (Rest of World)
- ❑ The online-only institutional price of $1,680 (N&S America), €1,320 (Europe) and £885 (Rest of World)
- ❑ JOE+JME+ERC: The print+online institutional price of $3,220 (N&S America), €2,555 (Europe) and £1,620 (Rest of World). This represents a discount of ~33% compared with taking out separated subscriptions.

❑ Send me a proforma invoice

❑ Charge my Visa/Access/Mastercard (Number ____________ Expiry date ____________)

Name ____________

Address ____________

Signature ____________ Date ____________

If paying by credit card, please ensure you include the address where your credit card bills are sent, if different from above.
Please return this form to Society for Endocrinology, c/o Portland Press, Commerce Way, Colchester, CO2 8HP
(Tel: +44-1206-796351; Fax: +44-1206-799331; Email: sales@endocrinology.org).

A Society for Endocrinology publication

Simvastatin antagonizes tumor necrosis factor-α inhibition of bone morphogenetic proteins-2-induced osteoblast differentiation by regulating Smad signaling and Ras/Rho-mitogen-activated protein kinase pathway

Misuzu Yamashita, Fumio Otsuka, Tomoyuki Mukai[1], Hiroyuki Otani, Kenichi Inagaki, Tomoko Miyoshi, Junko Goto, Masahiro Yamamura[1] and **Hirofumi Makino**

Department of Medicine and Clinical Science, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, 2-5-1 Shikata-cho, Okayama City 700-8558, Japan

[1]Department of Rheumatology, School of Medicine, Aichi Medical University, Aichi 480-1195, Japan

(Correspondence should be addressed to F Otsuka; Email: fumiotsu@md.okayama-u.ac.jp)

Abstract

Recent studies have shown that the mevalonate pathway plays an important role in skeletal metabolism. Statins stimulate bone morphogenetic proteins-2 (BMP-2) production in osteoblasts, implicating a possible beneficial role for statins in promoting anabolic effects on bone. Here, we investigated the effects of a lipophilic simvastatin on osteoblast differentiation using mouse myoblast C2C12 cells, in the presence of tumor necrosis factor-α (TNF-α), an inflammatory cytokine that inhibits osteogenesis. The addition of TNF-α to C2C12 cells suppressed the BMP-2-induced expression of key osteoblastic markers including Runx2 and alkaline phosphatase (ALP) activity. Simvastatin had no independent effects on Runx2 and alkaline phosphatase activity; however, it reversed the suppressive effects of TNF-α. The ability of simvastatin to reverse TNF-α inhibition of BMP-induced Smad1,5,8 phosphorylation and Id-1 promoter activity suggests the involvement of Smad signaling pathway in simvastatin action. In addition, cDNA array analysis revealed that simvastatin increased expression levels of Smads in C2C12 cells exposed to TNF-α that also activated mitogen-activated protein kinase (MAPK) signaling pathways, including extracellular signal-regulated kinase 1/2 (ERK1/2), P38, and stress-activated protein kinase/c-Jun NH2-terminal kinase (SAPK/JNK). Simvastatin potently suppressed TNF-α-induced phosphorylation of ERK1/2 and SAPK/JNK by inhibiting TNF-α-induced membrane localization of Ras and RhoA. Farnesyl pyrophosphate (FPP) and geranylgeranyl pyrophosphate (GGPP) reversed the simvastatin effects on TNF-α-induced activation of Ras/Rho/MAPK pathways. FPP and GGPP also restored the simvastatin effects on TNF-α-induced suppression of Runx2 and ALP activity. In addition, simvastatin decreased the expression levels of TNF type-1 and -2 receptor mRNAs. Collectively, simvastatin supports BMP-induced osteoblast differentiation through antagonizing TNF-α-to-Ras/Rho/MAPK pathway and augmenting BMP-Smad signaling, suggesting a potential usage of statins to ameliorate inflammatory bone damage.

Journal of Endocrinology (2008) **196**, 601–613

Introduction

Bone morphogenetic proteins (BMPs), members of the transforming growth factor (TGF)-β superfamily, have established critical roles in governing various aspects of embryological development, including brain, heart, kidney, and eyes (Reddi 1997). BMPs also play a pivotal regulatory role in mesoderm induction and dorsoventral patterning of developing limb buds and are known to promote differentiation of mesenchymal stem cells into chondrocytes and osteoblasts as well as the differentiation of osteoprogenitor cells into osteoblasts (Lieberman *et al.* 2002). The biological functions of BMPs are mediated through the Smad signal transduction pathway via BMP receptors. In addition to the established developmental actions of BMPs, a variety of physiological BMP actions in many endocrine and vascular tissues including the ovary (Otsuka *et al.* 2000, Shimasaki *et al.* 2004), pituitary (Otsuka & Shimasaki 2002), thyroid (Suzuki *et al.* 2005), adrenal (Suzuki *et al.* 2004, Kano *et al.* 2005, Inagaki *et al.* 2006), kidney (Otani *et al.* 2007), and vascular smooth muscle cells (Takeda *et al.* 2004) have been elucidated.

Osteoblasts, which arise from mesenchymal stem cell precursors, undergo differentiation in response to a number of factors including BMPs, TGFs, insulin-like growth factor-I (IGF-I), vascular endothelial growth factor (VEGF), and steroids (McCarthy *et al.* 1989, Noda & Camilliere 1989, Celeste *et al.* 1990, Midy & Plouet 1994, Hughes *et al.* 1995, Goad *et al.* 1996, Gerber *et al.* 1999, Spelsberg *et al.* 1999).

Journal of Endocrinology (2008) **196**, 601–613
0022–0795/08/0196–601 © 2008 Society for Endocrinology *Printed in Great Britain*
DOI: 10.1677/JOE-07-0532
Online version via http://www.endocrinology-journals.org

Once matrix synthesis begins in cultured osteoblast cells, they differentiate and osteoblastic markers including alkaline phosphatase (ALP), type-I collagen and osteocalcin are activated. Osteoblasts then embed in the extracellular matrix consisting of collagen fibrils, and the matrix is mineralized and extended in the collagen fibrils. Deposition and maintenance of mineralized skeletal elements are further regulated by various growth factors and cytokines.

Mundy *et al.* (1999) first reported that statins stimulate *in vivo* bone formation in rodents and increase new bone volume in mouse calvaria cell cultures. Statins also stimulate expression of bone anabolic factors, such as VEGF and BMP-2 (Maeda *et al.* 2003), and promote osteoblast differentiation and mineralization in MC3T3-E1 cells derived from new bone mouse calvaria (Maeda *et al.* 2001). Statins are potent inhibitors of cholesterol biosynthesis widely used to reduce serum cholesterol levels in hyperlipidemic patients (Hamelin & Turgeon 1998, Maron *et al.* 2000). Statins inhibit 3-hydroxy-3-methylglutarylcoenzyme A (HMG-CoA) reductase to block the conversion of HMG-CoA to mevalonate, a rate-limiting step in cholesterol synthesis (Goldstein & Brown 1990). By inhibiting the initial part of the cholesterol synthesis pathway, statins decrease the availability of several important lipid intermediate compounds including isoprenoids such as farnesyl pyrophosphate (FPP) and geranylgeranyl pyrophosphate (GGPP). These compounds are associated with post-translational modification of various small G-proteins including Ras and Ras-like proteins such as Rho, Rac, and Rab (Casey & Seabra 1996), which interact with the downstream mitogen-activated protein kinases (MAPKs) and play a central role in cellular responses such as cell proliferation, apoptosis, migration, and gene expression.

Little is known, however, about cellular mechanisms of statin actions in regulating osteoblast function. The present study was undertaken to investigate changes in marker expression corresponding to stages of osteoblast differentiation in statin-treated C2C12 cells focusing on the effects of a critical inflammatory cytokine, tumor necrosis factor (TNF)-α. The pluripotent mesenchymal precursor cell line C2C12, a subclone of a mouse myoblastic cell line, has been widely used as a model to examine the early stages of osteoblast differentiation during bone formation in muscular tissues (Katagiri *et al.* 1994, Ebisawa *et al.* 1999). Macrophages play a key role in chronic inflammation and joint destruction of rheumatoid arthritis by secreting pro-inflammatory cytokines including TNF-α (Feldmann *et al.* 1996). The clinical effectiveness of blocking TNF-α in treating active rheumatoid arthritis established the pathogenic significance of TNF-α in this disease (Feldmann & Maini 2001, Scott & Kingsley 2006). TNF-α produced by macrophages and inflammatory cells induces apoptosis or necrosis in various other cell types. TNF-α induces osteoclast differentiation leading to excess of bone resorption (Kudo *et al.* 2002). Since bone loss in arthritis is related to the activation of TNF-α system, it can be hypothesized that TNF-α also directly controls osteoblast survival and/or osteoblast function related to bone formation. However, roles of the TNF-α signaling system in determining osteoblast function and its differentiation remain unsolved.

In the present study, we investigated the effects of a lipophilic simvastatin and TNF-α on osteoblast differentiation using mouse myoblast C2C12 cells. This study shows that simvastatin supports BMP-induced osteoblast differentiation by antagonizing TNF-α-to-MAPK pathway and augmenting BMP-Smad signaling, suggesting a potential usage of simvastatin to ameliorate inflammatory bone damages shown in rheumatoid arthritis.

Materials and Methods

Reagents and supplies

Dulbecco's modified Eagle's medium (DMEM), penicillin–streptomycin solution, dimethylsulfoxide, FPP and GGPP were purchased from Sigma-Aldrich Co. Ltd. Recombinant human TNF-α was obtained from PeproTech EC Ltd (London, UK), and recombinant human BMP-2 was purchased from R&D Systems Inc. (Minneapolis, MN, USA). Simvastatin was provided by Merck & Co. Inc., and converted to the active form by alkaline hydrolysis. Id-1-Luc plasmid was kindly provided from Drs Tetsuro Watabe and Kohei Miyazono, Tokyo University (Japan).

Cell culture

The mouse myoblast cell line C2C12 was obtained from American Type Culture Collection (Manassas, VA, USA). C2C12 cells were cultured in DMEM supplemented with 10% fetal calf serum (FCS) and penicillin–streptomycin solution at 37 °C under a humid atmosphere of 95% air/5% CO_2. Changes in cell morphology were monitored using an inverted microscope.

RNA extraction and quantitative real-time RT-PCR analysis

To prepare total cellular RNA, C2C12 cells were cultured in a 12-well plate (2×10^5 viable cells) and treated with indicated concentrations of BMP-2, TNF-α, simvastatin, and either FPP or GGPP in serum-free DMEM. After 48-h culture, the medium was removed, and total cellular RNA was extracted using TRIzol (Invitrogen Corp.), quantified by measuring absorbance at 260 nm, and stored at −80 °C until assay. The extracted RNA (1·0 μg) was subjected to an RT reaction using the First-Strand cDNA synthesis system (Invitrogen Corp.) with random hexamer (2 ng/μl), reverse transcriptase (200 U), and deoxy-NTP (0·5 mM) at 42 and 70 °C for 50 and 10 min respectively. Oligonucleotides used for RT-PCR were custom ordered from Invitrogen Corp. PCR primer pairs were selected from different exons of the corresponding genes as follows: Runx2, 981–999, and

1291–1310 (from GenBank accession no. NM_009820); TNF type-1 receptor (TNFR1), 931–951 and 1211–1231 (BC052675); TNF type-2 receptor (TNFR2), 142–162 and 1142–1162 (Y14622); and a house-keeping gene, ribosomal protein L19 (RPL19), 373–393 and 547–567 (NM_009078). For the quantification of Runx2, TNFR1, TNFR2, and RPL19 mRNA levels, real-time PCR was performed using LightCycler-FastStart DNA Master SYBR Green I system (Roche Diagnostic Co.) under conditions of annealing at 60–62 °C with 4 mM $MgCl_2$, following the manufacturer's protocol. Accumulated levels of fluorescence were analyzed by the second derivative method after the melting curve analysis (Roche Diagnostic), and then the expression levels of target genes were standardized by RPL19 level in each sample.

ALP determination

After preculture with serum-free DMEM, cells (1×10^5 viable cells) were treated with indicated concentrations of BMP-2, TNF-α, simvastatin, and either FPP or GGPP in 12-well plates. After 72-h culture, cells were lysed and cellular ALP activity was measured by a fluorometric detection kit using 4-methylumbelliferyl phosphate disodium substrate (Sigma Chemical Co). ALP activity of each sample was normalized by protein concentration.

Western immunoblot analysis

Cells (2×10^5 viable cells) were precultured in 12-well plates in DMEM containing 10% FCS for 48 h. After preculture, the medium was replaced with serum-free fresh medium, and then indicated concentrations of BMP-2, TNF-α, simvastatin, FPP, and GGPP were added to the culture medium. After stimulation with growth factors for indicated periods, the membrane fraction of C2C12 cells was extracted by ProteoExtract Native Membrane Protein Extraction Kit (Calbiochem, San Diego, CA, USA). Cells and membrane fraction were solubilized in 100 µl RIPA lysis buffer (Upstate Biotechnology Inc., Lake Placid, NY, USA) containing 1 mM Na_3VO_4, 1 mM sodium fluoride, 2% SDS, and 4% β-mercaptoethanol. Total cell lysates and the membrane fraction were then subjected to SDS-PAGE/immunoblotting analysis, as reported previously (Inagaki *et al.* 2006) using anti-Runx2 (S-19) antibody (Santa Cruz Biotechnology, Santa Cruz, CA, USA), anti-actin antibody (Sigma–Aldrich Co. Ltd), anti-phospho-Smad1,5,8 antibody (Cell Signaling Technology Inc., Beverly, MA, USA), anti-phospho- and anti-total-extracellular signal-regulated kinase (ERK)1/2 MAPK antibodies (Cell Signaling Technology Inc.), anti-phospho- and anti-total-P38 MAPK antibodies (Cell Signaling Technology Inc.), anti-phospho- and anti-total-stress-activated protein kinase/c-Jun NH2-terminal kinase (SAPK/JNK) MAPK antibody (Cell Signaling Technology Inc.), and anti-pan-Ras and anti-RhoA antibody (Santa Cruz Biotechnology).

Transient transfection and luciferase assay

C2C12 cells (1×10^5 viable cells) were precultured in 12-well plates in DMEM with 10% FCS for 48 h. The cells were then transiently transfected with 500 ng Id-1-Luc reporter plasmid and 50 ng cytomegalovirus-β-galactosidase plasmid (pCMV-β-gal) using FuGENE6 (Roche Molecular Biochemicals) for 24 h. The cells were pretreated with indicated concentrations of BMP-2 and simvastatin for 24 h in serum-free fresh medium and then incubated with TNF-α. After 24-h culture, the cells were washed with PBS and lysed with Cell Culture Lysis Reagent (Toyobo, Osaka, Japan). Luciferase and β-galactosidase (β-gal) activities of the cell lysate were measured by luminescencer-PSN (ATTO, Tokyo, Japan), as reported previously (Miyoshi *et al.* 2006). The data were shown as the ratio of luciferase to β-gal activity.

cDNA array analysis

Oligo GEArray system (SuperArray Bioscience Corp., Frederick, MD, USA) that includes 113 genes of mouse TGF-β and BMP signaling pathway was used for analyzing the expression pattern of BMP signaling system in C2C12 cells. As we reported previously (Miyoshi *et al.* 2006, Otani *et al.* 2007), extracted total RNAs (2·0 µg) were used as templates to generate biotin-16-dUTP-labeled cDNA probes according to manufacturer's instruction. The cDNA probes were denatured and hybridized at 60 °C with the cDNA array membranes, which were washed and exposed to X-ray films with use of chemiluminescent substrates. To analyze the array results, we scanned the X-ray film and the image was inverted as grayscale TIFF files. The spots were digitized and analyzed using GEArray analyzer software (SuperArray Bioscience Corp.), and the data were normalized by subtraction of the background as the average intensity levels of plasmid DNA of pUC18. The spots of glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase and cyclophilin A (PPIA) were used as positive controls to compare the membranes. Using these standardized data, we compared the signal intensity of the membranes using the GEArray analyzer program (SuperArray Bioscience Corp.).

Statistical analysis

All results are shown as mean ± S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. Differences between groups were analyzed for statistical significance using ANOVA (StatView 5.0 software, Abacus Concepts Inc., Berkeley, CA, USA). P values $<0{\cdot}05$ were accepted as statistically significant.

Results

We first examined the expression profile of Runx2, also called core-binding factor 1 (Cbfa1), induced by BMP-2 treatment

in C2C12 cells. Runx2 is an important bone-specific transcription factor, which is essential for the differentiation of osteoblasts from mesenchymal precursors (Komori *et al.* 1997, Otto *et al.* 1997). Runx2 can directly stimulate transcription of osteoblast-related genes such as those encoding osteocalcin, type I collagen, osteopontin, and collagenase 3 by binding to specific enhancer regions (Ducy *et al.* 1997). Runx2 mRNA levels were significantly increased in the presence of BMP-2 (100 ng/ml) and attained the highest at 48-h culture condition (Fig. 1A). Runx2 protein levels were also enhanced by BMP-2 treatment in accordance with the time-dependent changes of Runx2 mRNA (Fig. 1B). Simvastatin effects on Runx2 mRNA levels were then characterized in the presence or absence of BMP-2. Simvastatin alone (1–100 μM) had no effects on endogenous Runx2 expression (Fig. 1C). BMP-2 (100 ng/ml) increased levels of Runx2 mRNA expression 2- to 2·5-fold during 48-h culture. Simvastatin (1–30 μM) had no significant effects on BMP-2-induced Runx2 mRNA expression although a high concentration (100 μM) of simvastatin had an inhibitory effect on BMP-2-induced Runx2 expression (Fig. 1C). Based on these results, 1–30 μM simvastatin was used for the following experiments of C2C12 cells.

We next investigated the effects of simvastatin on TNF-α action, which inhibits BMP-2-stimulated osteogenetic properties. C2C12 cells were cultured with TNF-α and BMP-2 in the presence or absence of simvastatin (3–30 μM). As shown in Fig. 2A, in the absence of simvastatin, BMP-2-induced Runx2 expression was potently suppressed by TNF-α (10–30 ng/ml) in a concentration-responsive manner. Notably, simvastatin impaired the Runx2 mRNA suppression induced by TNF-α in the presence of BMP-2 (Fig. 2A). To confirm the effect of simvastatin at the protein levels, cellular ALP activity was examined in C2C12 cells. Consistent with the simvastatin effects on Runx2 expression, simvastatin also suppressed TNF-α-induced reduction of ALP activity stimulated by BMP-2 (Fig. 2B). Thus, simvastatin concentration-dependently blocked the TNF-α effects that suppress osteoblastic differentiation elicited by BMP-2.

We further investigated the effects of simvastatin pretreatment on Runx2 expression and ALP activity modulated by TNF-α. Following 24-h pretreatment with simvastatin (1 and 10 μM), C2C12 cells were cultured with BMP-2 (100 ng/ml) and TNF-α (10 ng/ml). When cells were pretreated with simvastatin, the TNF-α effect suppressing BMP-2-induced Runx2 expression was significantly impaired (Fig. 3). In statin-pretreated cells, the peak response of BMP-2-induced ALP activity was potently enhanced (Fig. 4) while the induction of Runx2 mRNA was not affected (Fig. 3). In addition, the TNF-α suppression of ALP activity induced by BMP-2 was also reversed by pretreatment with simvastatin (Fig. 4). Thus, simvastatin might enhance osteoblast differentiation by regulating Runx2 expression and ALP activity through augmenting BMP-2 actions in C2C12 cells.

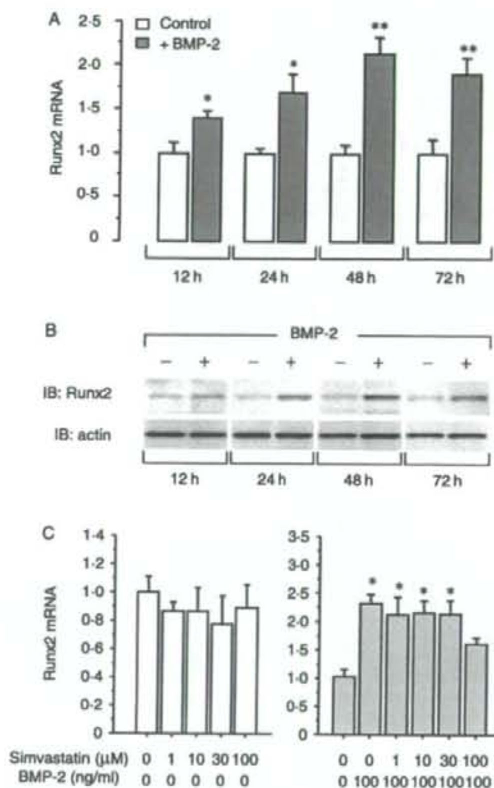


Figure 1 Characterization of Runx2 expression in C2C12 cells and simvastatin effects on BMP-induced Runx2 expression. (A) Time-course changes of BMP-2-induced Runx2 mRNA expression. C2C12 cells were cultured in the absence or presence of BMP-2 (100 ng/ml) for 72 h. Total cellular RNA was extracted and subjected to RT reaction. For the quantification of Runx2 and RPL19 mRNA levels, quantitative real-time PCR (qPCR) was performed. The expression level of Runx2 was standardized by RPL19 level in each sample. Results are shown as mean ± S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. $*P<0.05$ and $**P<0.01$ versus control levels. (B) Time-course changes of BMP-2-induced Runx2 protein expression. Cells were incubated in the absence or presence of BMP-2 (100 ng/ml) for 72 h. At each time point, cells were lysed and subjected to SDS-PAGE/immunoblot (IB) analysis using antibodies that detect Runx2 protein (55 kDa) and an internal control actin. The results shown are representative of those obtained from three independent experiments. (C) Simvastatin effects on BMP-induced Runx2 mRNA expression. Cells were treated with simvastatin (1–100 μM) in the absence or presence of BMP-2 (100 ng/ml) for 48 h. Total cellular RNA was extracted and subjected to qPCR analysis as described above. Results are shown as mean ± S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. $*P<0.05$ versus control levels.

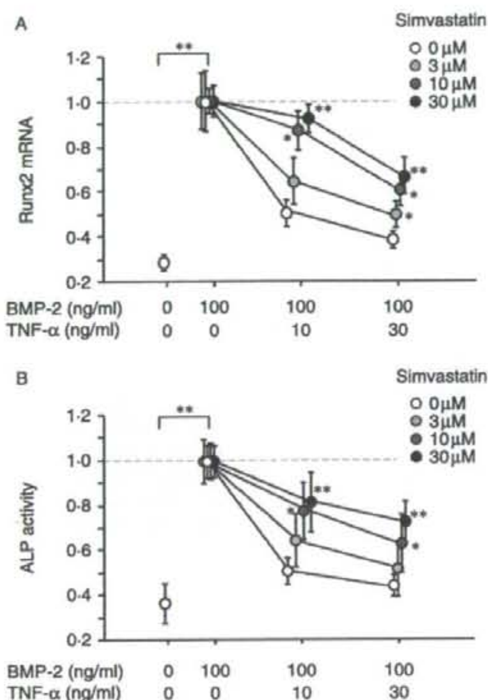


Figure 2 Simvastatin effects on TNF-α suppression of BMP-induced Runx2 expression and alkaline phosphatase (ALP) activity. (A) Simvastatin effects on TNF-α suppression of BMP-induced Runx2 expression. Cells were treated with simvastatin (3–30 µM) in the presence of BMP-2 (100 ng/ml) and TNF-α (10 and 30 ng/ml) for 48 h. Total cellular RNA was extracted and subjected to RT reaction. For the quantification of Runx2 and RPL19 mRNA levels, qPCR analysis was performed. The expression level of Runx2 was standardized by RPL19 level in each sample. Results are shown as mean ± S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. $*P<0.05$ and $**P<0.01$ versus simvastatin-free control groups or between the indicated groups. (B) Simvastatin effects on TNF-α suppression of BMP-induced ALP activity. Cells were treated with simvastatin (3–30 µM) in the presence of BMP-2 (100 ng/ml) and TNF-α (10 and 30 ng/ml) for 72 h. Cells were lysed and cellular ALP activity was measured by fluorometric method. Results are shown as mean ± S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. $*P<0.05$ and $**P<0.01$ versus simvastatin-free control groups or between the indicated groups.

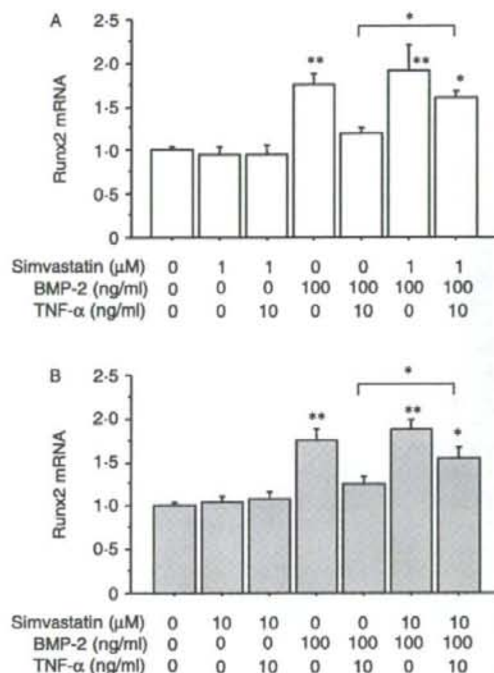


Figure 3 Effects of simvastatin pretreatment on TNF-α suppression of BMP-induced Runx2 expression. After preculture, the cells were pretreated with simvastatin (A: 1 µM and B: 10 µM) in combination with BMP-2 (100 ng/ml) for 24 h, and then cells were treated with TNF-α (10 ng/ml) for 48 h. Total cellular RNA was extracted and subjected to RT reaction. For the quantification of Runx2 and RPL19 mRNA levels, qPCR analysis was performed. The expression level of Runx2 was standardized by RPL19 level in each sample. Results are shown as mean ± S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. $*P<0.05$ and $**P<0.01$ versus control groups or between the indicated groups.

In order to investigate the mechanism by which simvastatin cooperates BMP effects, time-course changes of a key BMP signaling, phospho-Smad1,5,8 proteins were detected by western blotting analysis. As shown in Fig. 5A, BMP-2 stimulated Smad1,5,8 phosphorylation. Neither simvastatin nor TNF-α independently had any effect on the Smad1,5,8 activation (Fig. 5A); however, TNF-α inhibited BMP-2-induced Smad1,5,8 phosphorylation (Fig. 5B). Densitometric analysis of band intensities showed that simvastatin partially reversed Smad1,5,8 inactivation caused by TNF-α (Fig. 5B and C). To confirm this finding, we assessed a BMP target gene Id-1 promoter activity using cells transiently transfected with Id-1-Luc (Fig. 5D). In accordance with western blot data of Smad1,5,8 phosphorylation, Id-1-Luc activity elicited by BMP-2 was significantly suppressed by TNF-α. Importantly, 24-h pretreatment with simvastatin restored the suppression of BMP-2-induced Id-1 transcription caused by TNF-α. These results suggest that simvastatin maintains BMP-Smad signaling in C2C12 cells in spite of the TNF-α effects.

BMP type-I receptors, including ALK-2, ALK-3, and ALK-4; type II receptors, including BMPRII, ActRII, and ActRIIB; and Smad signaling molecules, including Smad1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, and 8 were clearly expressed in this cell line as reported earlier by RT-PCR (Mukai *et al.* 2007). ALK-6 is not expressed in C2C12 cells. To investigate the mechanism by which simvastatin maintains the BMP signaling in C2C12 cells, cDNA array analysis in BMP/TGF-β signaling

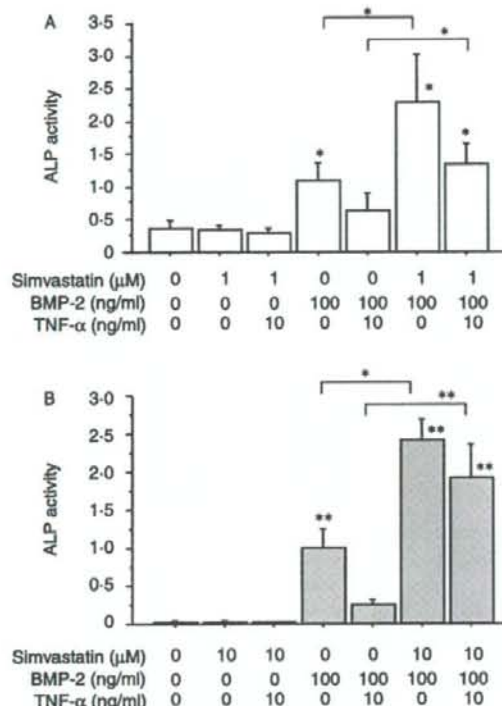


Figure 4 Effects of simvastatin pretreatment on TNF-α suppression of BMP-induced alkaline phosphatase (ALP) activity. After preculture, the cells were pretreated with simvastatin (A: 1 μM and B: 10 μM) in combination with BMP-2 (100 ng/ml) for 24 h, and then cells were treated with TNF-α (10 ng/ml) for 72 h. Cells were lysed and cellular ALP activity was measured by fluorometric method. Results are shown as mean ± S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. *$P<0.05$ and **$P<0.01$ versus control groups or between the indicated groups.

molecules was performed using total cellular RNAs extracted from C2C12 cells treated with TNF-α (10 ng/ml) alone and TNF-α (10 ng/ml) plus simvastatin (10 μM) for 24 h (Fig. 6A). Among the key regulatory genes for BMP-Smad activation in C2C12 cells, the enhanced expression of Smad1, 2, and 3 in the cells treated with simvastatin was noted (Fig. 6B), suggesting that increased Smad expression by simvastatin may be involved in facilitating BMP-Smad1,5,8 activation.

There has been increasing evidence suggesting that TNF-α activates MAPK signaling pathway in various cells including C2C12 cells, although the physiological roles of MAPK activation has yet to be elucidated. As demonstrated in Fig. 7A, BMP-2 alone (100 ng/ml) had no effect on MAPK activation, including the ERK1/2, P38, and SAPK/JNK pathways. In contrast, TNF-α (100 ng/ml) activated phosphorylation of ERK1/2, P38, and SAPK/JNK signaling regardless of the presence of BMP-2 (Fig. 7A). Densitometric analysis of band intensities showed that phosphorylation of ERK1/2 and SAPK/JNK, but not P38, pathways induced by TNF-α was significantly inhibited by co-treatment with simvastatin (10 μM; Fig. 7B). The simvastatin effect on inhibiting MAPK activation was not influenced by BMP-2 (Fig. 7B). To determine whether statins regulate the activity of small G-proteins, which are upstream components of MAPK cascades, we next examined the membrane localization of Ras and RhoA. Stimulation with TNF-α (100 ng/ml) potently increased the level of membrane-bound Ras and RhoA, whereas the effects of simvastatin and BMP-2 were negligible (Fig. 8). Of note, simvastatin (10 μM) significantly blocked TNF-α-induced Ras and RhoA membrane localization without affecting the total amount of these proteins in C2C12 cells (Fig. 8).

The inhibitory effect of simvastatin (10 μM) on TNF-α-induced Ras localization was preferentially restored by FPP (5 μM), while that on TNF-α-induced RhoA localization was reversed by FPP (5 μM) as well as GGPP (5 μM; Fig. 9A). FPP also reversed inhibitory effects of simvastatin on ERK1/2 and SAPK/JNK phosphorylation induced by TNF-α (Fig. 9B). GGPP predominantly restored the simvastatin effects on inhibiting TNF-α-induced SAPK/JNK phosphorylation (Fig. 9B). Furthermore, the simvastatin effects on TNF-α suppression of BMP-2-induced Runx2 expression and ALP activity were reversed in the presence of FPP and GGPP (Fig. 9C), suggesting that simvastatin antagonizes TNF-α effects, at least in part, by regulating Ras/Rho-to-MAPK pathway.

To investigate the effect of simvastatin on TNF-α sensitivity, changes in TNF receptor (TNFR) mRNA expression in C2C12 cells were examined in the presence of simvastatin using quantitative real-time PCR. These experiments demonstrated that simvastatin (1 and 10 μM) significantly decreased expression levels of both TNFR1 and TNFR2 (Fig. 10). TNF-α moderately reduced TNFR1 mRNA expression and had no effect on the expression of TNFR2 (Fig. 10). Thus, simvastatin has dual inhibitory effects on the TNFR signaling, including TNFR expression and the downstream ERK1/2 and SAPK/JNK pathways through Ras/Rho activation (Fig. 11).

Discussion

We recently reported that TNF-α suppresses BMP-2-induced expression of osteoblast markers such as Runx2, osteocalcin, and ALP activity (Mukai *et al.* 2007). Importantly, the inhibition of MAPK pathways, in particular SAPK/JNK, restored TNF-α effects on BMP-induced osteoblast differentiation, suggesting that SAPK/JNK pathway is a key regulator for suppressing BMP signaling caused by TNF-α (Mukai *et al.* 2007). In the present study, we further demonstrated that simvastatin inhibits TNF-α effects in C2C12 cells, leading to maintenance of osteoblast differentiation induced by BMP-2 (Fig. 11). TNF-α suppressed the expression of osteoblastic

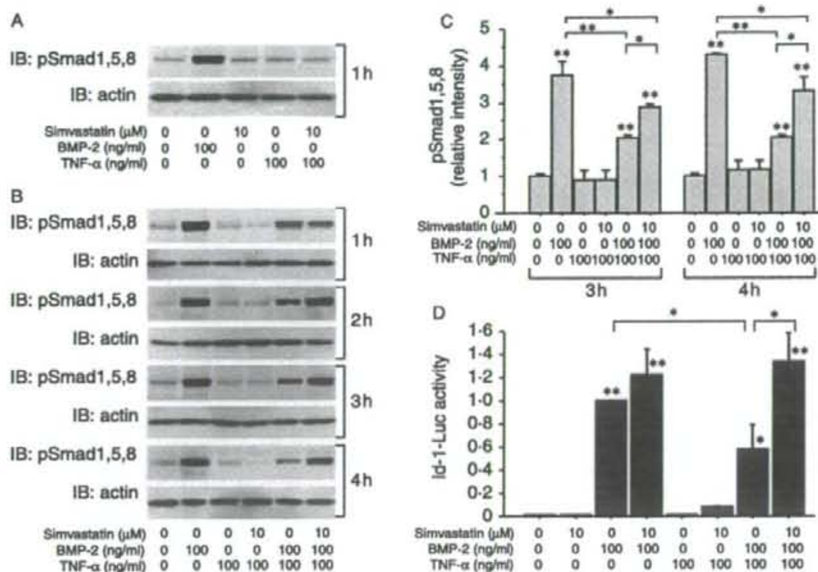


Figure 5 Effects of simvastatin and TNF-α on BMP-induced Smad signaling in C2C12 cells. (A and B) After preculture, cells were incubated with simvastatin (10 μM) in combination with BMP-2 (100 ng/ml) and TNF-α (100 ng/ml). After adding BMP-2 for 1–4 h, cells were lysed and subjected to SDS-PAGE/immunoblot (IB) analysis using antibodies that detect phosphorylated Smad1,5,8 molecules (pSmad1,5,8) and actin. The results shown are representative of those obtained from three independent experiments. (C) The relative integrated density of each protein band (B; the data of 3- and 4-h culture conditions) was digitized by NIH image J 1.34s. Results are shown as mean ± S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. (D) Cells (1×10^5 viable cells) were transiently transfected with Id-1-Luc reporter plasmid (500 ng) and pCMV-β-gal. The cells were pretreated with simvastatin (10 μM) in combination with BMP-2 (100 ng/ml) for 24 h and then incubated with TNF-α (100 ng/ml). After 24-h culture, the cells were washed with PBS, lysed and the luciferase and β-galactosidase (β-gal) activities were measured by luminometer. The data were expressed as the ratio of luciferase to β-gal activity. Results are shown as mean ± S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. $^*P<0.05$ and $^{**}P<0.01$ versus control groups or between the indicated groups.

markers including Runx2 and ALP activity stimulated by BMP-2 in which simvastatin impaired the TNF-α effects on BMP-2-induced osteogenetic process (Fig. 11).

Mundy *et al.* first reported that statins were potent stimulators of bone formation *in vitro* (Mundy *et al.* 1999). In that study, over 30 000 compounds were screened for their ability to stimulate BMP-2 promoter in an immortalized murine osteoblast cell line. The rationale for the approach was that osteoblast differentiation is enhanced by BMPs, whereas other bone growth factors, such as TGFs and fibroblast growth factors (FGFs), stimulate osteoblast proliferation but inhibit osteoblast differentiation. In this regard, Sugiyama *et al.* (2000) also reported that simvastatin, but not pravastatin, induces BMP-2 expression in human osteosarcoma cells. In these experiments, the addition of mevalonate, the downstream metabolite of HMG-CoA reductase, inhibited the statin-mediated activation of BMP-2. Maeda *et al.* (2001) showed stimulatory effects of simvastatin on osteoblastic differentiation in transformed osteoblastic cells and rat bone marrow cells. It also was reported that statins sequentially induce the expression of stage-dependent markers for osteoblasts, leading to enhancement of osteoblast differentiation (Maeda *et al.* 2004). Thus, there has been accumulating evidence indicating that statins potentially elicit anabolic effects on the osteoblastic differentiation at various stages.

Regarding the functional interaction of statins and cellular BMP system, Hu *et al.* (2006) showed that simvastatin enhances BMP type-II receptor (BMPRII) gene expression in pulmonary artery smooth muscle cells and lung microvascular endothelial cells. Fluvastatin is reported to induce Id-1 expression in human dermal microvascular endothelial cells (Pammer *et al.* 2004). These data provided a convergence of BMP and statin signaling in induction of endothelial Id-1 and implied that these pathways are functionally linked. In the present study, cDNA array analysis of BMP/TGF-β signaling molecules demonstrated enhanced expression of Smad1,2,3 in C2C12 cells treated with simvastatin. Thus, it is likely that the increased Smad expression by simvastatin may be involved in augmenting BMP-induced Smad1,5,8 activation during the process of osteoblast differentiation.

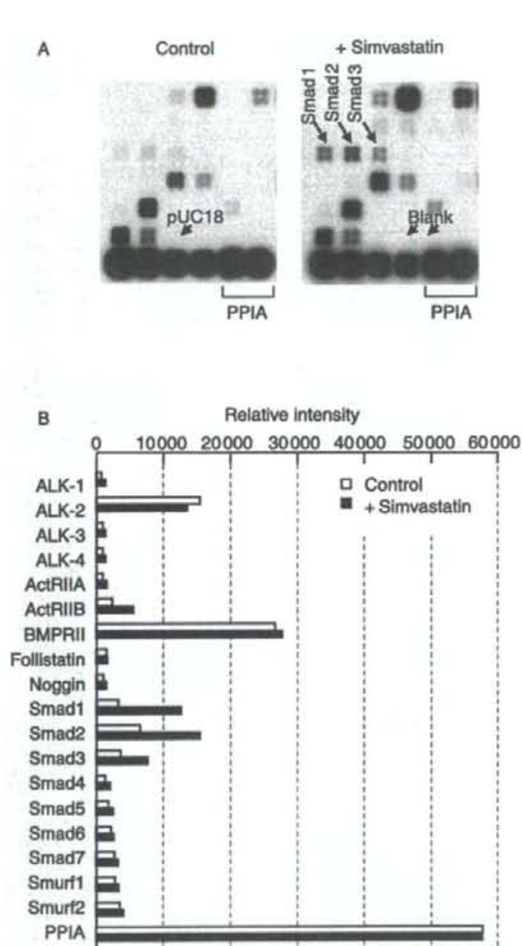
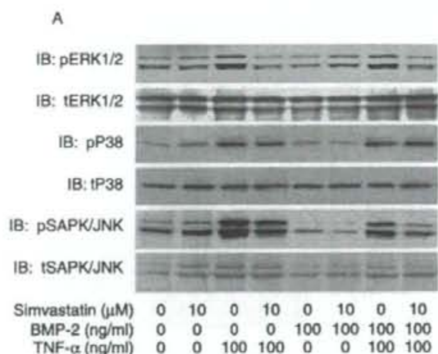


Figure 6 Simvastatin effects on the expression pattern of BMP system molecules in C2C12 cells. (A) Total cellular RNAs were extracted from C2C12 cells treated with TNF-α (10 ng/ml) alone (control group) or simvastatin (10 μM) in the presence of TNF-α (10 ng/ml) for 24 h (+simvastatin group). Total cellular RNAs (2·0 μg) were used as templates to generate biotin-16-dUTP-labeled cDNA probes for GEArray® membranes (SuperArray Bioscience Corp.) that include human TGF-β and BMP signaling molecules. The cDNA probes were denatured and hybridized with the cDNA array membranes and then the membranes were washed and exposed to X-ray films using chemiluminescent substrate. (B) The spots on the X-ray films were scanned, digitized, and the signal intensities of the spots on the membranes obtained from two separate experiments were analyzed using the GEArray analyzer program (SuperArray Bioscience Corp.) after subtraction of the background levels of pUC18 DNA. Glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase (GAPDH) and cyclophilin A (PPIA) are used as a positive control to compare the membranes.



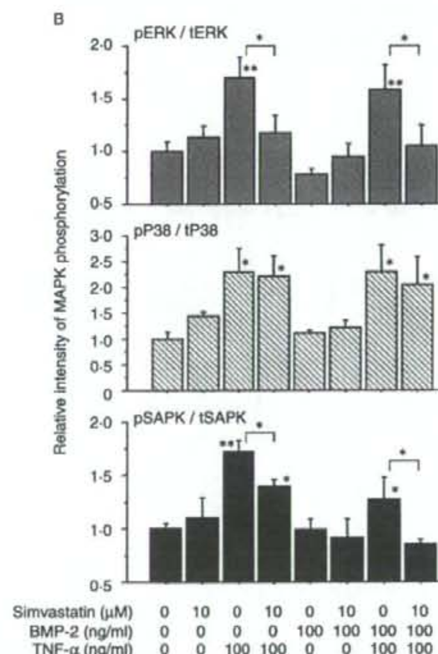


Figure 7 Effects of simvastatin and BMP-2 on TNF-α-induced MAPK phosphorylation in C2C12 cells. (A) After preculture, cells were incubated with simvastatin (10 μM) in combination with BMP-2 (100 ng/ml) and TNF-α (100 ng/ml). After adding TNF-α for 60 min, cells were lysed and subjected to SDS-PAGE/immunoblot (IB) analysis using anti-phospho-ERK1/2 (pERK1/2), anti-total-ERK1/2 (tERK1/2), anti-phospho-P38 (pP38), anti-total-P38 (tP38), anti-phospho-SAPK/JNK (pSAPK/JNK), and anti-total-SAPK/JNK (tSAPK/JNK) antibodies that detect phosphorylated MAPK signaling. The results shown are representative of those obtained from three independent experiments. (B) The relative integrated density of each protein band was digitized by NIH image J 1.34s. Results are shown as mean±S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. *$P<0·05$ and **$P<0·01$ versus control or between the indicated groups.

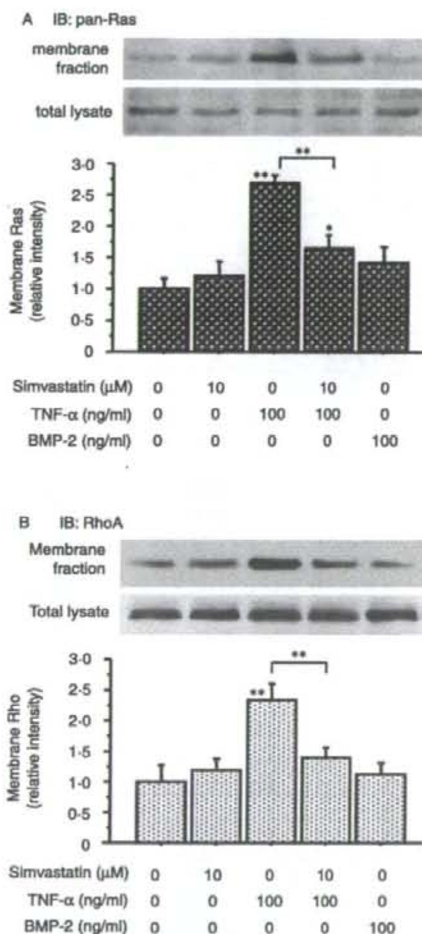


Figure 8 Simvastatin effects on TNF-α-induced Ras/Rho membrane localization in C2C12 cells. The cells were incubated with TNF-α (100 ng/ml) or BMP-2 (100 ng/ml) in combination with simvastatin (10 μM). After adding TNF-α for 60 min, total cellular protein and the membrane fractions were extracted and then subjected to SDS-PAGE/immunoblot (IB) analysis using (A) anti-pan-Ras and (B) anti-RhoA antibodies. The results shown are representative of those obtained from three independent experiments. The relative integrated density of each protein band was digitized by NIH image J 1.34s. Results are shown as mean ± S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. $^*P<0.05$ and $^{**}P<0.01$ versus control or between the indicated groups.

TNF-α is a pleiotropic cytokine produced by activated macrophages, which signals through two distinct surface receptors, TNFR1 and TNFR2 (Baud & Karin 2001, Chen & Goeddel 2002). TNF-α has been recognized as a potent stimulator of bone resorption (Mundy 1993) via TNFR1

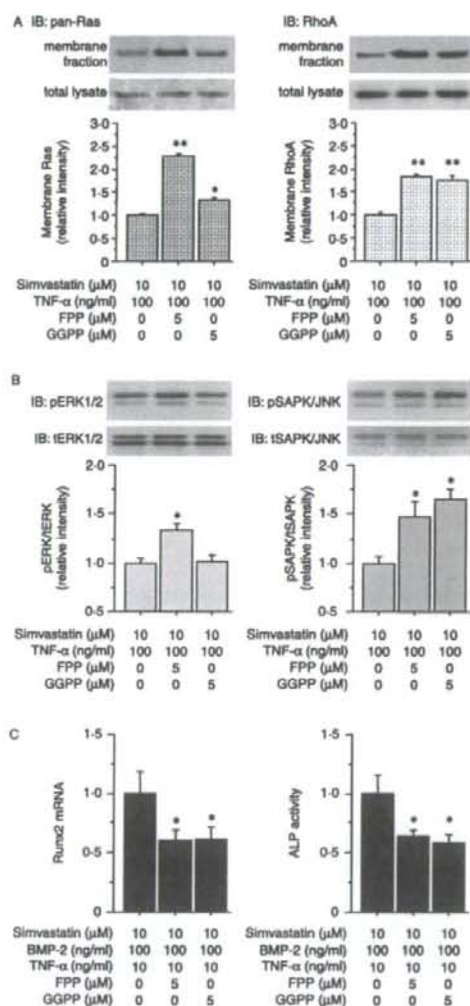


Figure 9 Effects of farnesyl pyrophosphate (FPP) and geranylgeranyl pyrophosphate (GGPP) on simvastatin actions in C2C12 cells. (A and B) Cells were incubated with TNF-α (100 ng/ml) in combination with simvastatin (10 μM) and either FPP (5 μM) or GGPP (5 μM). After adding TNF-α for 60 min, protein fractions were subjected to SDS-PAGE/immunoblot (IB) analysis for detection of (A) Ras and RhoA (see Fig. 8 legend) and (B) ERK1/2 and SAPK/JNK phosphorylation (see Fig. 7 legend). The results shown are representative of those obtained from three independent experiments. The relative integrated density of each protein band was digitized by NIH image J 1.34s. (C) Cells were pretreated with simvastatin (10 μM), BMP-2 (100 ng/ml) and either FPP (5 μM) or GGPP (5 μM) for 24 h. After treatment with TNF-α (10 ng/ml), cells were subjected to Runx2 mRNA analysis and ALP assay (see Figs 3 and 4 legends). Results are shown as mean ± S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. $^*P<0.05$ and $^{**}P<0.01$ versus control groups.

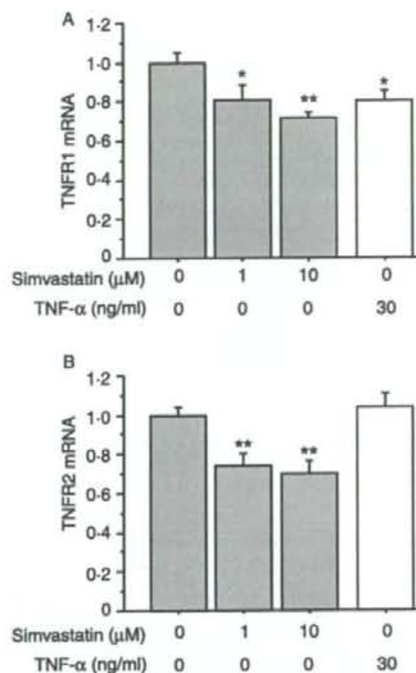


Figure 10 Effects of simvastatin on TNF receptor expression by C2C12 cells. After preculture, the cells were treated with simvastatin (1 and 10 μM) and TNF-α (30 ng/ml) for 24 h. Total cellular RNA was extracted and subjected to RT reaction. For the quantification of TNF type-1 (A): TNFR1, type-2 receptors (B): TNFR2, and RPL19 mRNA levels, qPCR analysis was perfomed. The expression levels of target genes were standardized by RPL19 level in each sample. Results are shown as mean±S.E.M. of data from at least three separate experiments, each performed with triplicate samples. *$P<0·05$ and **$P<0·01$ versus control groups.

signaling. The cytoplasmic tail of TNFR1 contains a death domain (DD), which is essential for induction of apoptosis; however, this motif is missing in TNFR2 and the function of this receptor is poorly understood (MacEwan 2002). In this study, simvastatin reduced the expression of both TNFR1 and TNFR2 in C2C12 cells (Fig. 11). The expression of TNFR1 and TNFR2 in monocytes has been shown to be modulated by various cytokines including TNF-α, interleukin-10, and macrophage-colony stimulating factor (Takasugi *et al.* 2006). With regard to the effects of TNF-α on osteoblast differentiation, Chen and colleagues suggested a new linkage between BMP and TNF system, showing that BMP-2 and BMP-4 inhibited TNF-α-mediated apoptosis in a NF-κB-independent manner by inhibition of caspase-8 activation in C2C12 cells (Chen *et al.* 2001). This finding suggests that BMPs not only stimulate osteoblast differentiation but also promote cell survival during osteogenetic process.

There has been recent evidence indicating that the effects of TNF-α are primarily associated with activation of MAPK signaling, which subsequently increases the activation of stress-related proteins such as NF-κB and suppressor of cytokine signaling (SOCS; Wajant *et al.* 2003). Frost *et al.* (2003*a*) reported that TNF-α stimulated the phosphorylation of SAPK/JNK pathway in C2C12 cells and that the specific inhibition of SAPK/JNK activation, but not other MAPK pathways, prevented TNF-α-induced drop of IGF-I expression. They also showed that SAPK/JNK inhibition blocked TNF-induced IL-6 synthesis in C2C12 cells, suggesting the significance of SAPK/JNK pathway for modulating inflammatory responses in C2C12 cells (Frost *et al.* 2003*b*). In this regard, we recently showed that TNF-α effects on inhibition of osteogenic process are mediated, at least in part, by the activation of SAPK/JNK pathway and the suppression of an inhibitory Smad6 expression in C2C12 cells (Mukai *et al.* 2007). In the present study, we report that simvastatin potently suppresses TNF-α-induced phosphorylation of ERK1/2 and SAPK/JNK but not P38 pathways. Thus, simvastatin supports BMP-induced osteoblast differentiation through antagonizing TNF-α-to-MAPK pathway as well as augmenting BMP-Smad signaling (Fig. 11).

Inhibition of simvastatin in TNF-α-induced ERK1/2 and SAPK/JNK phosphorylation is likely due to the suppression of small molecular weight G-proteins Ras/Rho in the process of osteoblast differentiation. In our study, TNF-α increased the levels of membrane-bound Ras and RhoA, and simvastatin prevented TNF-α-induced membrane localization of Ras/Rho without affecting the total amount of these proteins in C2C12 cells (Fig. 11). Activation of the mevalonate pathway leads to the production of intermediates, such as FPP and GGPP, which activate Ras and Rho by post-translational modification (Liao & Laufs 2005). Ras/Rho proteins are involved in many of cellular functions such as cell proliferation, differentiation, apoptosis, migration, contraction, and regulation of gene transcription (Liao & Laufs 2005). Activated Ras/Rho proteins are key components in signal-transducing kinase cascades including MAPKs (Shirai *et al.* 2007). The anchoring of these small G-proteins to cell membranes requires prenylation. Ras proteins are farnesylated and Rho proteins are geranylgeranylated (Liao & Laufs 2005). Small G-proteins exist in an inactive GDP-bound cytosolic form and upon cellular activation they exchange GTP and translocate to the active membrane form (Auer *et al.* 2002). By inhibiting this isoprenylation, statins lower membrane levels and activity of Ras/Rho proteins (Auer *et al.* 2002). Based on our results, this process presumably accounts for the present simvastatin effects on antagonizing TNF-α-to-MAPK cascade in C2C12 cells (Fig. 11). In this regard, Fromigué *et al.* (2006) reported that lipophilic statins facilitate membrane RhoA relocalization to the cytosol and decrease phosphorylation of ERK1/2 by human osteosarcoma cells. It is further shown that statins induce caspase-dependent apoptosis of osteosarcoma cells through RhoA-MAPK-Bcl-2 pathway independently of BMP-2 signaling (Fromigue *et al.*

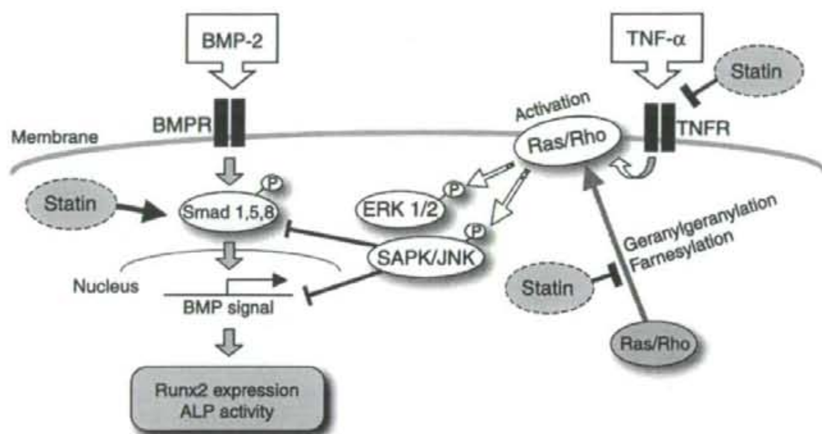


Figure 11 A mechanism by which simvastatin antagonizes TNF-α inhibition on BMP-2-induced osteoblastic differentiation. Simvastatin supports BMP-2-induced osteoblast differentiation shown as Runx2 expression and ALP activation through antagonizing TNF-α-to-MAPK pathway and augmenting Smad1,5,8 signaling. SAPK/JNK pathway which is induced by TNF-α is a major regulator for suppressing BMP signaling (Mukai *et al.* 2007). Activation of mevalonate pathway leads to post-translational modification of Ras and Rho such as farnesylation and geranylgeranylation. Activated Ras/Rho proteins are key components for signal-transducing kinase cascades including ERK1/2 and SAPK/JNK. Simvastatin prevents TNF-α-induced membrane localization of Ras/Rho and also reduces the expression of TNFR in C2C12 cells.

2006). Ohnaka *et al.* (2001) have demonstrated stimulatory effects of pitavastatin on the expression of BMP-2 and osteocalcin mRNA in primary cultured human osteoblasts, in which Rho-kinase inhibition was shown as the major mechanism of statin-induced osteoblastic differentiation. Ghosh-Choudhury *et al.* (2007) showed possible signaling crosstalk for the statin-induced osteoblast differentiation. In their study, a lipophilic lovastatin-stimulated Ras activation in osteoblast precursor 2T3 cells, leading to phosphatidylinositol-3-kinase (PI3K) activation, which in turn regulates Akt and ERK phosphorylation to induce BMP-2 expression for osteoblast differentiation (Ghosh-Choudhury *et al.* 2007). Future investigation is necessary to elucidate the underlying mechanism by which statins elicit differential effects on MAPK pathways through Rho/Ras inactivation in the process of osteoblast differentiation.

Taken together with our present data, statins stimulate osteoblast differentiation and matrix mineralization *in vitro*, which implicates clinical applicability of statins for treating osteoporosis. In addition to the effects of statins on endogenous cholesterol levels by inhibiting HMG-CoA reductase, statins also have pleiotropic effects such as anti-inflammatory, anti-proliferative, and anti-thrombotic effects (Rosenson *et al.* 1999, Bellosta *et al.* 2000). Although effects of statins on bone mass and bone turnover remain controversial, increased bone mass, and reduced bone turnover have been observed in patients treated with statins (Garrett & Mundy 2002). The Mundy *et al.* (1999) initial rodent experiments were remarkable for not only the statin's effects on bone formation but also the anti-resorptive effects since animals given oral simvastatin had a significant reduction in osteoclast number. Additional evidence that statins may have an anti-resorptive effect has been shown by Woo *et al.* (2000) using an *in vitro* assay for osteoclast formation (Takahashi *et al.* 1988), suggesting that statins also exert inhibitory effects on the differentiation of osteoclasts by interfering with the fusion process by which osteoclast precursors develop into multinucleated osteoclast-like cells. Many clinical studies have suggested that statin use is associated with a reduced risk of bone fractures; however, only a modest increase in bone mass and inconsistent effects on bone turnover have been reported to date (Bauer 2003, Jadhav & Jain 2006). Given that $<5\%$ of an oral dose statin reaches the systemic circulation (Bellosta *et al.* 2000), osteoblasts and osteoclasts are exposed to very low concentrations of statin with usual oral regimens. Specific statins with high affinity to bone tissues would be useful for prevention or treatment of osteoporosis due to inflammatory cytokines associated with rheumatoid arthritis.

Acknowledgements

We thank Dr R Kelly Moore for helpful discussion and critical reading of the manuscript. We also thank Drs Tetsuro Watabe and Kohei Miyazono for providing Id-1-Luc plasmid. This work was supported in part by Grants-in-Aid for

Scientific Research, Life Science Foundation of Japan, Takeda Science Foundation, Sakakibara Memorial Research Grant, The Kawasaki Foundation for Medical Science and Medical Welfare, The Ichiro Kanahara Foundation, Kato Memorial Bioscience Foundation, Terumo Lifescience Foundation, and Japan Rheumatism Foundation. The authors declare that there is no conflict of interest that would prejudice the impartiality of this scientific work.

References

Auer J, Berent R, Weber T & Eber B 2002 Clinical significance of pleiotropic effects of statins: lipid reduction and beyond. *Current Medicinal Chemistry* **9** 1831–1850.

Baud V & Karin M 2001 Signal transduction by tumor necrosis factor and its relatives. *Trends in Cell Biology* **11** 372–377.

Bauer DC 2003 HMG CoA reductase inhibitors and the skeleton: a comprehensive review. *Osteoporosis International* **14** 273–282.

Bellosta S, Ferri N, Bernini F, Paoletti R & Corsini A 2000 Non-lipid-related effects of statins. *Annals of Medicine* **32** 164–176.

Casey PJ & Seabra MC 1996 Protein prenyltransferases. *Journal of Biological Chemistry* **271** 5289–5292.

Celeste AJ, Iannazzi JA, Taylor RC, Hewick RM, Rosen V, Wang EA & Wozney JM 1990 Identification of transforming growth factor beta family members present in bone-inductive protein purified from bovine bone. *PNAS* **87** 9843–9847.

Chen G & Goeddel DV 2002 TNF-R1 signaling: a beautiful pathway. *Science* **296** 1634–1635.

Chen S, Guttridge DC, Tang E, Shi S, Guan K & Wang CY 2001 Suppression of tumor necrosis factor-mediated apoptosis by nuclear factor κB-independent bone morphogenetic protein/Smad signaling. *Journal of Biological Chemistry* **276** 39259–39263.

Ducy P, Zhang R, Geoffroy V, Ridall AL & Karsenty G 1997 Osf2/Cbfa1: a transcriptional activator of osteoblast differentiation. *Cell* **89** 747–754.

Ebisawa T, Tada K, Kitajima I, Tojo K, Sampath TK, Kawabata M, Miyazono K & Imamura T 1999 Characterization of bone morphogenetic protein-6 signaling pathways in osteoblast differentiation. *Journal of Cell Science* **112** 3519–3527.

Feldmann M & Maini RN 2001 Anti-TNF alpha therapy of rheumatoid arthritis: what have we learned? *Annual Review of Immunology* **19** 163–196.

Feldmann M, Brennan FM & Maini RN 1996 Role of cytokines in rheumatoid arthritis. *Annual Review of Immunology* **14** 397–440.

Fromigue O, Hay E, Modrowski D, Bouvet S, Jacquel A, Auberger P & Marie PJ 2006 RhoA GTPase inactivation by statins induces osteosarcoma cell apoptosis by inhibiting p42/p44-MAPKs-Bcl-2 signaling independently of BMP-2 and cell differentiation. *Cell Death and Differentiation* **13** 1845–1856.

Frost RA, Nystrom GJ & Lang CH 2003*a* Tumor necrosis factor-alpha decreases insulin-like growth factor-I messenger ribonucleic acid expression in C2C12 myoblasts via a Jun N-terminal kinase pathway. *Endocrinology* **144** 1770–1779.

Frost RA, Nystrom GJ & Lang CH 2003*b* Lipopolysaccharide and proinflammatory cytokines stimulate interleukin-6 expression in C2C12 myoblasts: role of the Jun NH2-terminal kinase. *American Journal of Physiology, Regulatory, Integrative and Comparative Physiology* **285** R1153–R1164.

Garrett IR & Mundy GR 2002 The role of statins as potential targets for bone formation. *Arthritis Research* **4** 237–240.

Gerber HP, Vu TH, Ryan AM, Kowalski J, Werb Z & Ferrara N 1999 VEGF couples hypertrophic cartilage remodeling, ossification and angiogenesis during endochondral bone formation. *Nature Medicine* **5** 623–628.

Ghosh-Choudhury N, Mandal CC & Choudhury GG 2007 Statin-induced Ras activation integrates the phosphatidylinositol 3-kinase signal to Akt and MAPK for bone morphogenetic protein-2 expression in osteoblast differentiation. *Journal of Biological Chemistry* **282** 4983–4993.

Goad DL, Rubin J, Wang H, Tashjian AH Jr & Patterson C 1996 Enhanced expression of vascular endothelial growth factor in human SaOS-2 osteoblast-like cells and murine osteoblasts induced by insulin-like growth factor I. *Endocrinology* **137** 2262–2268.

Goldstein JL & Brown MS 1990 Regulation of the mevalonate pathway. *Nature* **343** 425–430.

Hamelin BA & Turgeon J 1998 Hydrophilicity/lipophilicity: relevance for the pharmacology and clinical effects of HMG-CoA reductase inhibitors. *Trends in Pharmacological Sciences* **19** 26–37.

Hu H, Sung A, Zhao G, Shi L, Qiu D, Nishimura T & Kao PN 2006 Simvastatin enhances bone morphogenetic protein receptor type II expression. *Biochemical and Biophysical Research Communications* **339** 59–64.

Hughes FJ, Collyer J, Stanfield M & Goodman SA 1995 The effects of bone morphogenetic protein-2, -4, and -6 on differentiation of rat osteoblast cells *in vitro*. *Endocrinology* **136** 2671–2677.

Inagaki K, Otsuka F, Suzuki J, Kano Y, Takeda M, Miyoshi T, Otani H, Mimura Y, Ogura T & Makino H 2006 Involvement of bone morphogenetic protein-6 in differential regulation of aldosterone production by angiotensin II and potassium in human adrenocortical cells. *Endocrinology* **147** 2681–2689.

Jadhav SB & Jain GK 2006 Statins and osteoporosis: new role for old drugs. *Journal of Pharmacy and Pharmacology* **58** 3–18.

Kano Y, Otsuka F, Takeda M, Suzuki J, Inagaki K, Miyoshi T, Miyamoto M, Otani H, Ogura T & Makino H 2005 Regulatory roles of bone morphogenetic proteins and glucocorticoids in catecholamine production by rat pheochromocytoma cells. *Endocrinology* **146** 5332–5340.

Katagiri T, Yamaguchi A, Komaki M, Abe E, Takahashi N, Ikeda T, Rosen V, Wozney JM, Fujisawa-Sehara A & Suda T 1994 Bone morphogenetic protein-2 converts the differentiation pathway of C2C12 myoblasts into the osteoblast lineage. *Journal of Cell Biology* **127** 1755–1766.

Komori T, Yagi H, Nomura S, Yamaguchi A, Sasaki K, Deguchi K, Shimizu Y, Bronson RT, Gao YH, Inada M *et al.* 1997 Targeted disruption of Cbfa1 results in a complete lack of bone formation owing to maturational arrest of osteoblasts. *Cell* **89** 755–764.

Kudo O, Fujikawa Y, Itonaga I, Sabokbar A, Torisu T & Athanasou NA 2002 Proinflammatory cytokine (TNFalpha/IL-1alpha) induction of human osteoclast formation. *Journal of Pathology* **198** 220–227.

Liao JK & Laufs U 2005 Pleiotropic effects of statins. *Annual Review of Pharmacology and Toxicology* **45** 89–118.

Lieberman JR, Daluiski A & Einhorn TA 2002 The role of growth factors in the repair of bone. Biology and clinical applications. *Journal of Bone and Joint Surgery, American Volume* **84-A** 1032–1044.

MacEwan DJ 2002 TNF receptor subtype signalling: differences and cellular consequences. *Cellular Signalling* **14** 477–492.

Maeda T, Matsunuma A, Kawane T & Horiuchi N 2001 Simvastatin promotes osteoblast differentiation and mineralization in MC3T3-E1 cells. *Biochemical and Biophysical Research Communications* **280** 874–877.

Maeda T, Kawane T & Horiuchi N 2003 Statins augment vascular endothelial growth factor expression in osteoblastic cells via inhibition of protein prenylation. *Endocrinology* **144** 681–692.

Maeda T, Matsunuma A, Kurahashi I, Yanagawa T, Yoshida H & Horiuchi N 2004 Induction of osteoblast differentiation indices by statins in MC3T3-E1 cells. *Journal of Cellular Biochemistry* **92** 458–471.

Maron DJ, Fazio S & Linton MF 2000 Current perspectives on statins. *Circulation* **101** 207–213.

McCarthy TL, Centrella M & Canalis E 1989 Regulatory effects of insulin-like growth factors I and II on bone collagen synthesis in rat calvarial cultures. *Endocrinology* **124** 301–309.

Midy V & Plouet J 1994 Vasculotropin/vascular endothelial growth factor induces differentiation in cultured osteoblasts. *Biochemical and Biophysical Research Communications* **199** 380–386.

Miyoshi T, Otsuka F, Suzuki J, Takeda M, Inagaki K, Kano Y, Otani H, Mimura Y, Ogura T & Makino H 2006 Mutual regulation of follicle-stimulating hormone signaling and bone morphogenetic protein system in human granulosa cells. *Biology of Reproduction* **74** 1073–1082.